

【調査の目的等】

- 三大都市圏以外の地方から進学や就職で東京圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)に転入し、現在東京圏で働いている若年層(男女)が、現在の仕事に就いた時、地元の就職先にもっていたイメージ等を把握(インターネット調査、有効回答数2,453人)。
- 地方における「職場」「働き方」の課題、今後どのようなことに取り組むべきか等を考えるための基礎資料を得ることが目的。

【ポイント 1】

- 東京圏転入者が現在(東京圏)の仕事を選ぶにあたって重視したことは、男女ともに「給与水準」や「自分の関心に近い仕事ができること」が相当程度高い(6割超)。また、男性では「企業の将来性」、女性では「一都三県で仕事をする事」とする割合も高い。女性では、さらに「育児・介護の制度が充実していること」も一定程度重視。(図1)
- 東京圏転入者が地元の就職先を選ばなかった理由は、男女ともに「一都三県で仕事をしたかったから」が最も高い。また、男性では「希望する仕事があったから」が、女性では「一都三県で暮らしたかったから」も相当程度高い割合。女性では「親元や地元を離れたかったから」も高い割合。(図2)

図1 現在(東京圏)の仕事を選ぶにあたって重視したこと(複数回答)

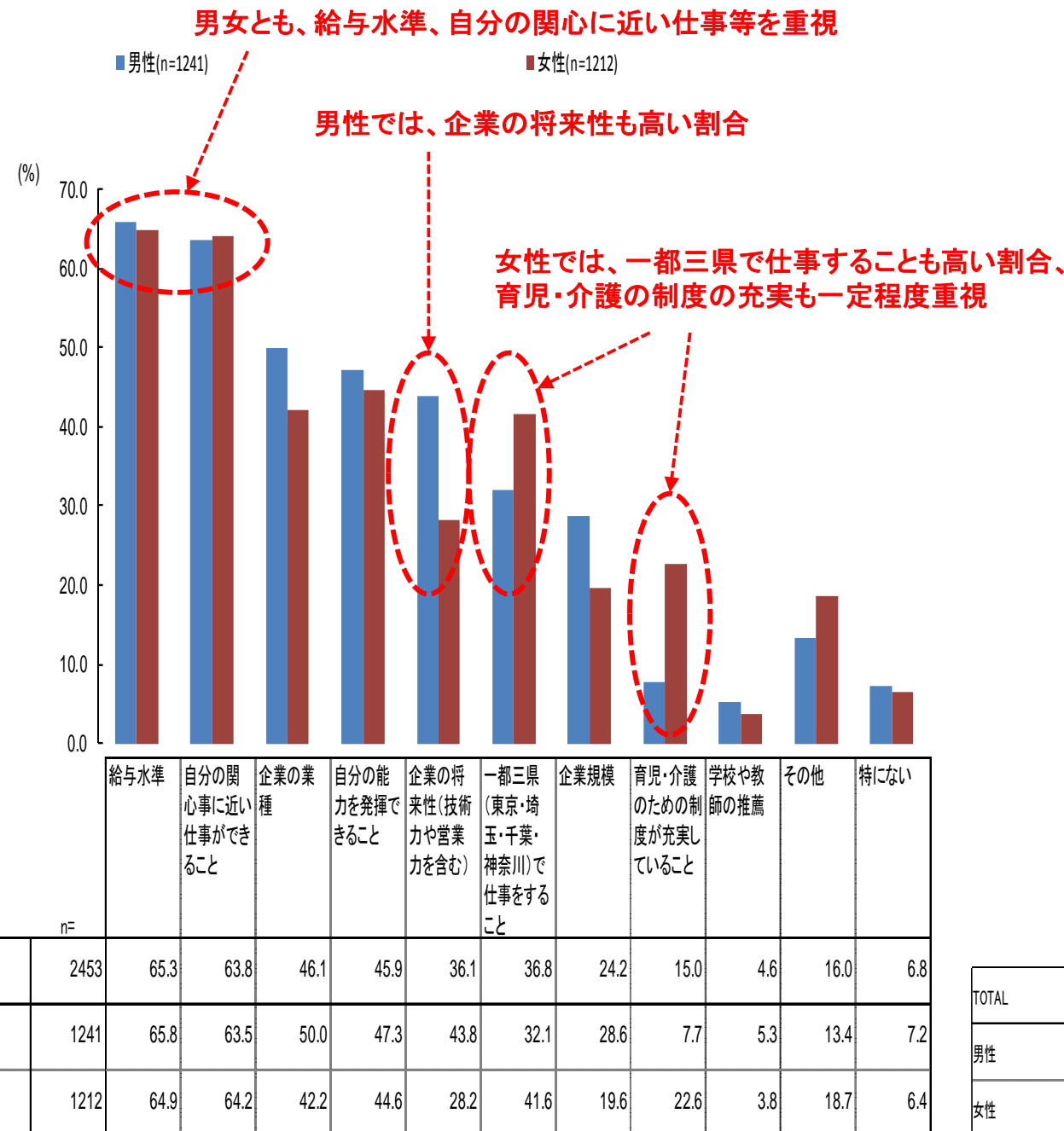
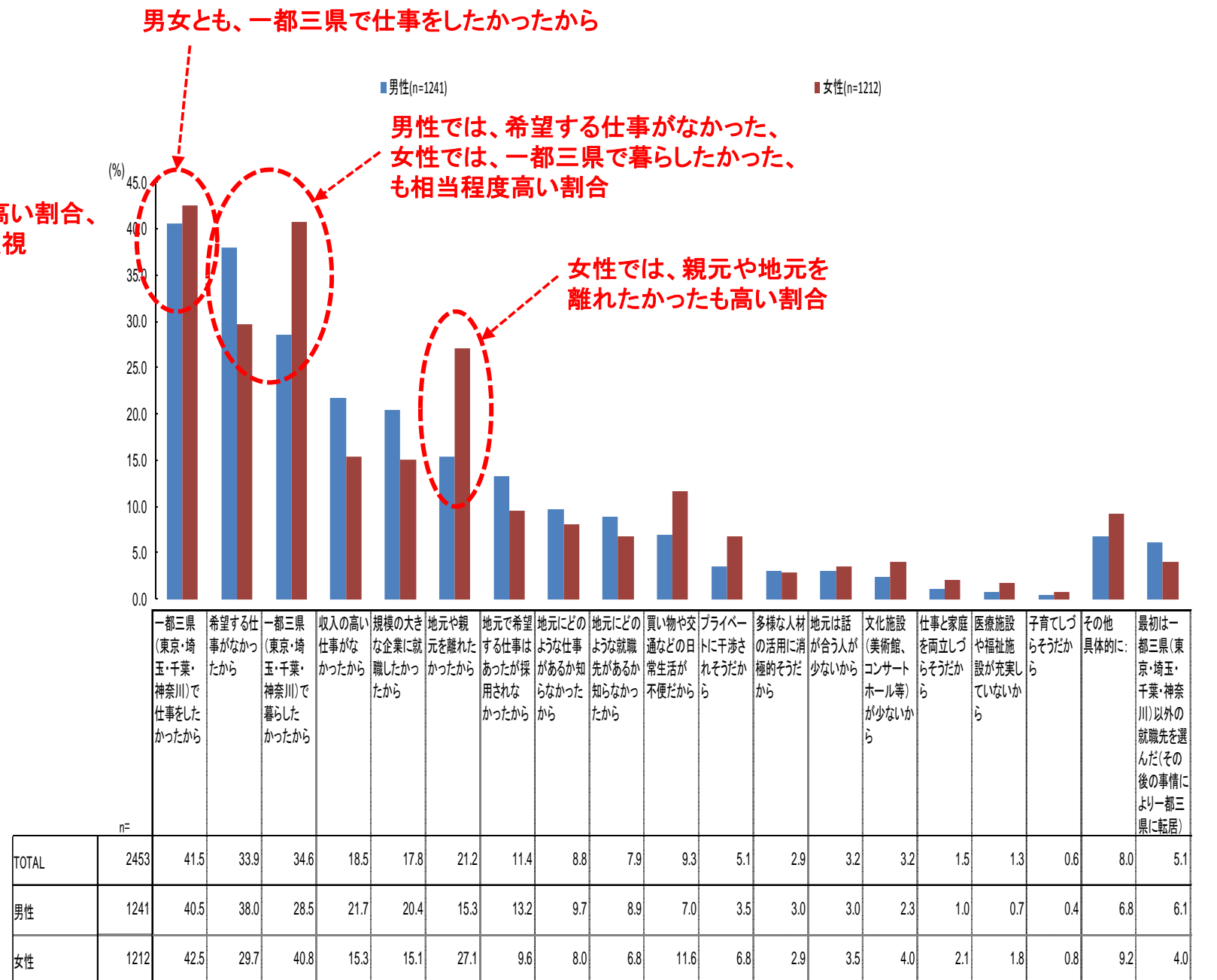


図2 地元の就職先を選ばなかった理由(複数回答、抜粋)



東京圏に転入した若年者の「働き方」に関する意識調査 結果のポイント ②

【ポイント 2】

- 東京圏転入者が就職当時もっていた地元の就職先のイメージは、「長く勤め続けられる」「通勤時間が短い」「転勤がない」と思っていた割合が高い。一方、能力に応じた仕事、十分な収入、成長の実感、責任ある仕事を任せられる、希望した仕事に就ける、将来性のある仕事が多い等については、そうは思っていなかった割合が高い。また、職場の風通しのよさ、育児・介護休暇の取りやすさ、ハラスメントの少なさ、ワークライフバランスへの管理職の理解、短時間勤務等の制度があるについても、そうは思っていなかった割合が高い。(図3)
- 地方の暮らしのイメージについては、住居費・物価の安さ、自然環境、何かあった時に頼れる知り合いの多さについて、そう思っていた割合がかなり高い。一方、ストレスが少ない、医療や介護が利用しやすいについては、そうは思っていなかった割合が高い。(図4)

図3 就職当時もっていた、地元の就職先のイメージ そう思っていた割合が高い そうは思っていなかった割合が高い

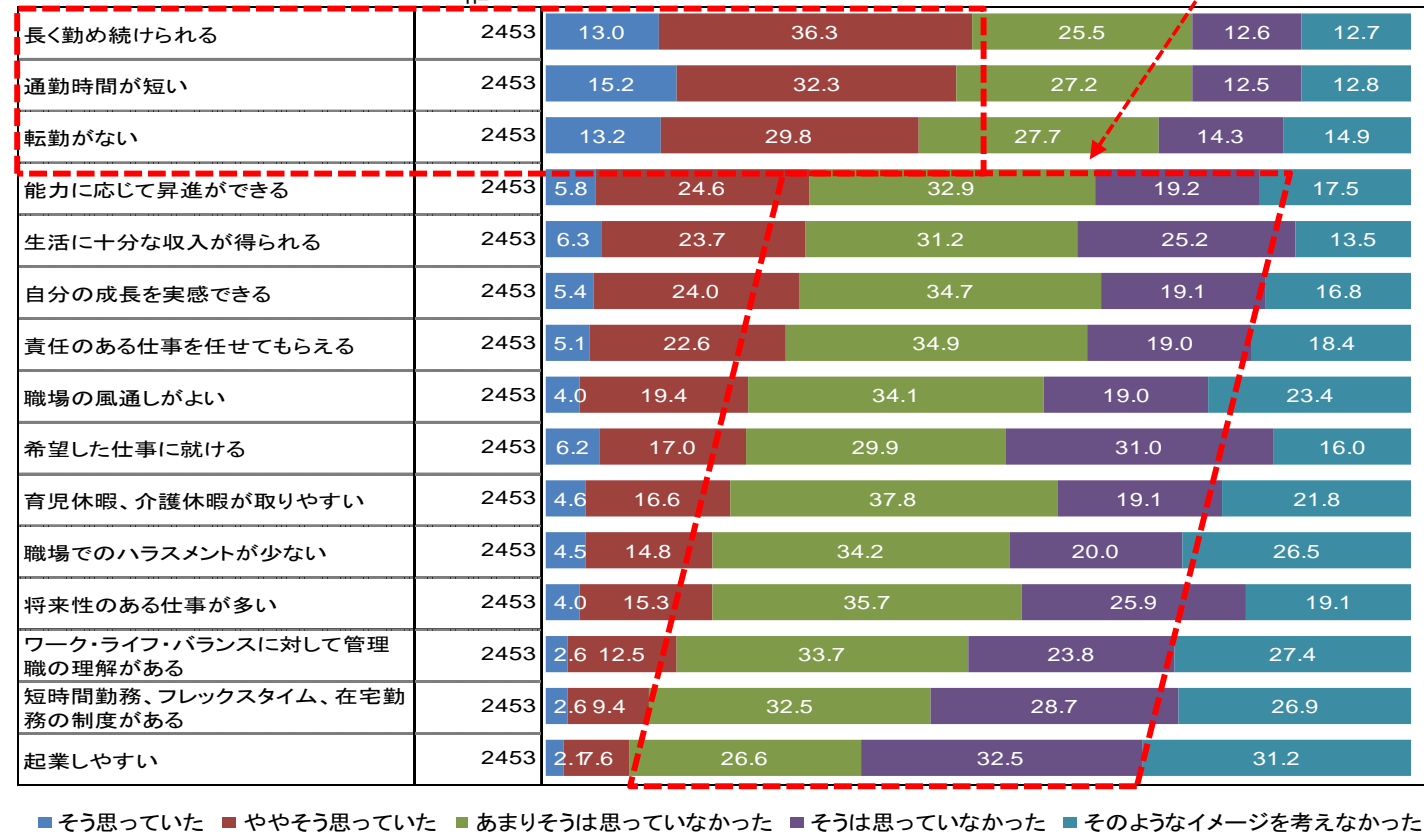
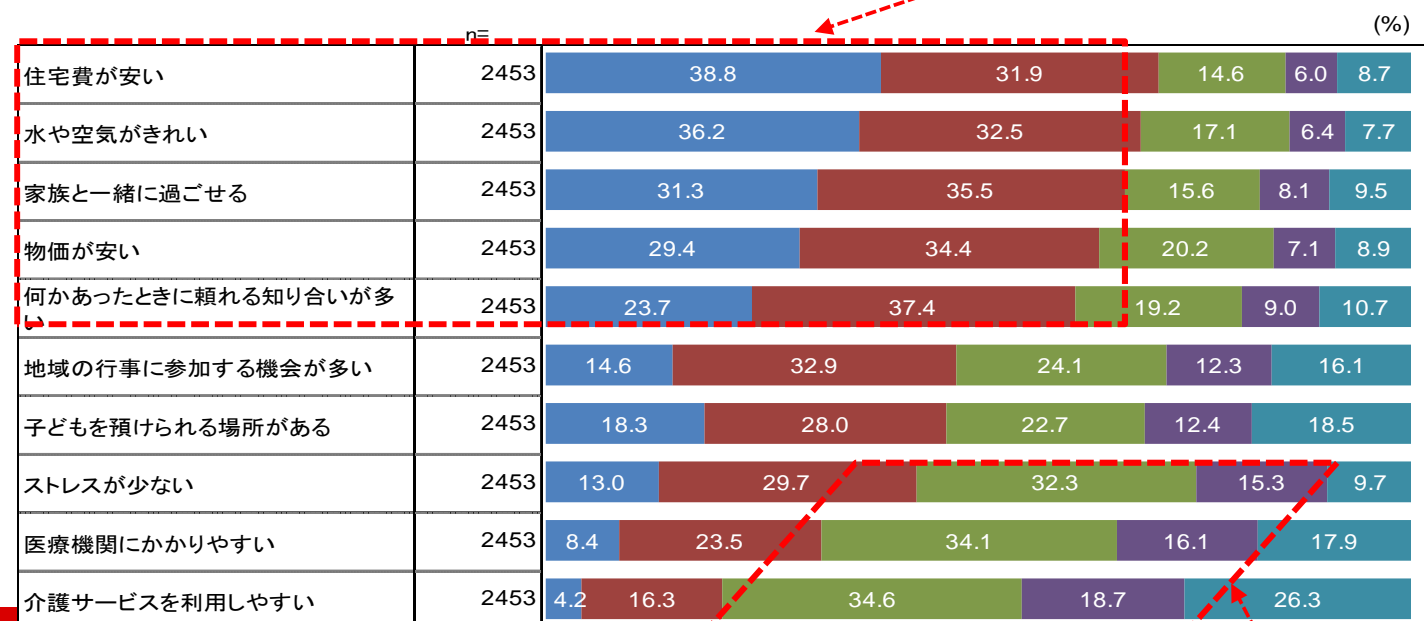


図4 就職当時もっていた、地元で暮らすことのイメージ



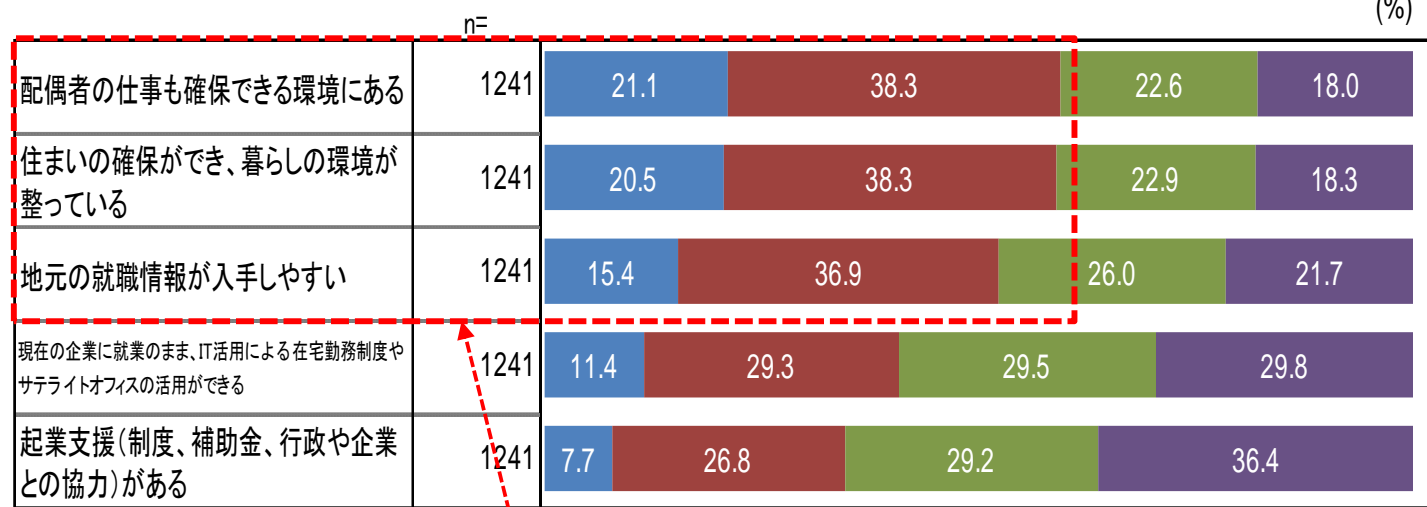
【ポイント 3】

- どのような条件・環境が整えば、地元に戻って仕事することを検討するかについて、前向きな検討材料になる(とても前向きな検討材料になる+前向きな検討材料になる)とする割合をみると、男女ともに「配偶者の仕事も確保できる環境にある」「住まいの確保ができ、暮らしの環境が整っている」において相当程度高く、男性6割、女性6割超となっている。(図5)
- また、男女ともに、「地元の就職情報が入手しやすい」ことも、前向きな検討材料になるとする割合が5割を超えている。(図5)

図5 どのような条件・環境が整えば、地元にもどって仕事することを検討するか

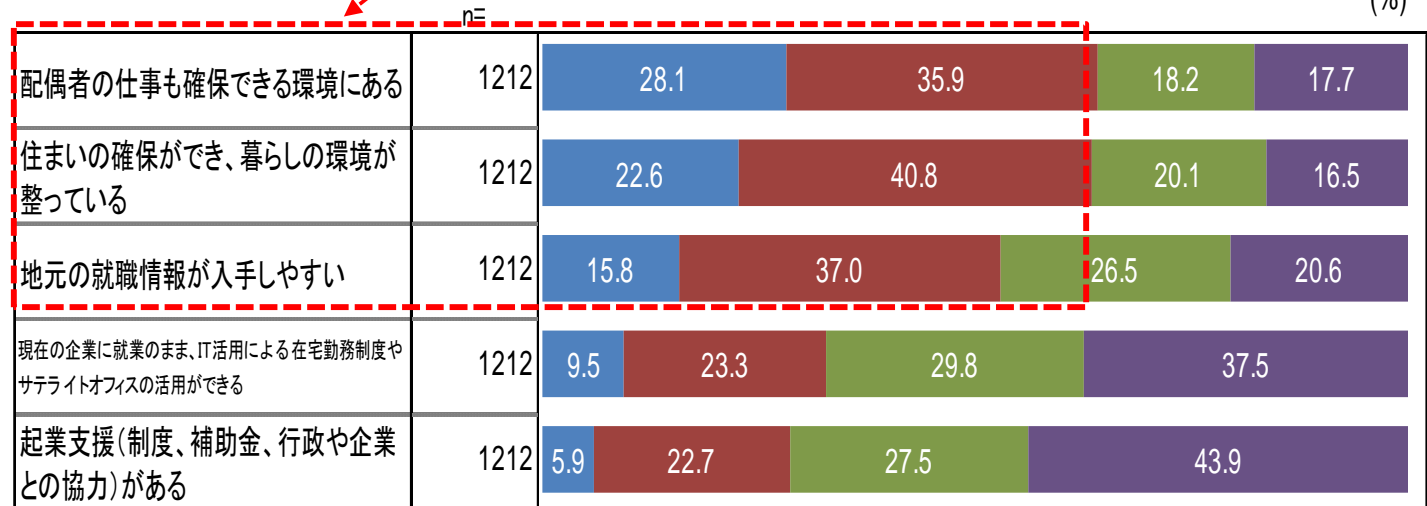
■ とても前向きな検討材料になる ■ 前向きな検討材料になる ■ 前向きな検討材料になるかもしれない ■ 前向きな検討材料にはならない

【男性】



男性も女性も、「配偶者の仕事も確保できる環境にある」「住まいの確保ができ、暮らしの環境が整っている」「地元の情報が入手しやすい」がポイント

【女性】



そうは思っていなかった割合が高い